

## ジョグラフ事務局長意見交換会

2008年6月16日 日本自然保護協会会議室  
通訳・文責 (財)日本自然保護協会 道家哲平  
資料制作協力 若林有美子

### 発言要旨

- ・ COP10の重要性とは、2010年目標の達成年であり、生物多様性年のハイライトである。
- ・ 2010年には、女性、企業、科学者、議会、NGOといったサミットを開催していき、2010年9月の国連総会生物多様性首脳会合やCOP10に反映したい。
- ・ COPの直前には、世界市民団体フォーラム Global Civil Society Forum を開催したい。これには、日本のNGOの力が必要。
- ・ 市民社会の声は、サイドイベントにとどめず、正式な場に届ける (mainstreaming 化) しくみを作りたい。
- ・ 条約事務局に、NGO 連絡員 (focal point) の他、日本人の連絡調整担当を置き、NGO ニュースレターの制作や日本の準備状況の紹介を行いたい。
- ・ COP10の誘致は閣議決定。COP10のためのオールジャパン (環境省だけではない) の準備委員会が必要。「COP10のホストは日本政府ではありません、日本です」
- ・ NGOの準備委員会もありうる。その場合でも、CBD事務局はNGOと密な連携を取りたい。
- ・ 日本の議長としての責任は、2012年まで続く。2012年とは、ヨハネスブルクサミットから10年、リオ3条約の20周年という記念であり、そこまで日本が牽引していく義務がある。
- ・ COP10成功の指標は3つ  
名古屋ターゲット(2020年目標)の合意、 ABSに関する国際体制、 名古屋メソッドの発信
- ・ 「NGOがなければ、CBDはありえない」 Without NGO Without CBD」

---

### 議事録

---

本日はみなさんにこのような機会を設けていただき大変うれしく思っております。名古屋のCOP10については、希望と期待を抱いて、今回日本に来ました。日本のNGOとの連携を高めていきたいと考えております。というのも、2010年というのは大変重要な機会でありまして2010年目標という生物多様性の劣化をくい止めるといってその目標を達成する年でもあります。

現在の生物多様性の損失、それは気候変動であるとか都市化の問題であるとか色々な原因によるものなのですが、現在我々が直面している課題というのは大変大きなものです。

同様に2010年というのは国際生物多様性

年の年でもあります。国際生物多様性年というのは国連総会で決められたもので、初のことです。つまり、生物多様性への理解をもっと高めていきたい、という年で2010年の1月から12月まで続くわけです。そして、その年の10月にはCOP10が名古屋で開催されるという状況です。

現在、生物多様性条約として、2010年の9月に国連総会で首脳が集まるサミット開催を提案することが、COP9で決まりました。おそらくこのサミットを開催するという決定は今年の12月に行われる国連総会で採択されるだろうと思われます。

フィンランドがとても力を入れて主導していますが、3月8日が「女性の日」となっています。

て、この「女性の日」というのも一つの議題となっています。

現在ユース・サミットというのもすすめていきたいと考えています。また、ビジネスを対象としたビジネスのCEOが集まるサミットあるいは科学者のサミットというのも開催しなければならないというふうに思っています。そして当然NGOのサミットも必要となります。これはCOPのサイド・イベントというレベルではなくてCOPに直接インプットするものです。ハイレベルセグメントではメディア、企業、様々なNGOといったパネルが参加して首脳にメッセージを出すという場面を考えています。

また都市の参加というのも考えています。名古屋はとても都市化が進んだところでありまして、COP9では初めて都市に関する決議が出されました。ですから都市というのがとても重要になってきます。今後も都市化というのはどんどん進みますので、都市の介入というのが非常に重要になってくるのです。

また議会の方々によるサミットというのも考えていかなければいけません。ですので、名古屋ではあらゆるステークホルダーを集めたいと思っています。そしてNGOというのはその中でもっとも重要なステークホルダー、関係者の一人と考えています。

名古屋で期待しているのは世界市民団体フォーラム(Global Civil Society Forum)が開催できないものかと思っています。これまで政府は政府で、市民社会は市民社会で議論していたのを一緒にしていくというものです。ですから、そういった議論を積み重ねていってハイレベルな大臣クラスの人たちとNGOが積み重ねたものをディスカッションするパネルというのを設けていきたいと希望しています。

今まで話したことはこれまで実現していなかったことです。だからこそみなさんのサポートが必要となってきます。EUのNGOとは確かに手法が違うというのは聞きました。しかし生物多様

性の目的それを高めることは一緒だと感じています。これは決してCBD事務局だけでできることではないので、是非みなさんと協力してやっていきたいと思っています。

現在CBD事務局ではNGOのフォーカルポイントということでカナダ人の方を雇っているのですが、環境省からも調整担当を事務局に派遣していただくことをリクエストしているところです。こういうような連絡調整をしてくれる人たち(フォーカルポイント)によってNGOのためのニュースレター、NGOの記事を書いたニュースレター、それと日本が何をどのように準備しているのかというニュースレターを発行していきたいと考えています。

また、今回はCOP10のための特別な準備委員会というのが必要だと考えています。環境省だけの準備委員会ではなくて、農水省であるとか、財務省、あるいはJICAといったODAや国際支援を扱うそういったところも含まれたような、また、当然市民団体も入り、愛知県も、名古屋も入っているオール・ジャパンの準備委員会が必要であると考えています。なぜなら、COP10誘致というのは環境省が決めたわけではなくて内閣できたことで、これは大変重いことです。もしNGOの準備委員会というのもできれば、私たちは常にコンタクトをとり、連携をとって生物多様性条約の準備に役立てていきたいと思っています。2010年というのは世界中がここ日本に集まるというふうに考えています。

それは単に人が来るというだけにしたくありません。実はCOP9では、全部の会議がインターネットで中継されました。環境省にもお願いしたいところなのですがCOP10でも同様にネット中継をするということを考えていきたい、つまり世界中の人が見ている会議にしていきたいと思っています。そして、またCOP10は10月に開催されますが、その一ヶ月前には国連総会

が行われます。1日あるいは2日間世界の首脳が集まるので、そこで名古屋で何をすべきかということ議論していきたい、これは非常に重要な機会になり、そして生物多様性を守っていくということについての世界レベルの意思決定というのを行っていききたいというふうに思っています。

5月22日にグリーンウェーブというイニシアティブを立ち上げました。これは世界中の小学生のネットワークで、学校の敷地内や近隣に木を植えるというものです。わたしは、子供の環境をもっと緑であふれているものでなければいけないと考えています。モントリオールとかモザンビークなどとか様々なところでそういうネットワークを広げていきたいと思っており、明日JICAとそういうところも相談しようと思っっています。たとえばWWFが3月に行ったスイッチ・オフ・キャンペーンというのは、個人的にはややネガティブな気がします。なぜなら、都市や私たちの生活は電気がなければ成り立たないからです。

もっとポジティブなメッセージとして緑を増やそうということでワンビリオンキャンペーンというのを展開していこうとしています。

様々なところに署名をしてもらって、子どものための生物多様性というのを考えていく、子どもからの生物多様性というキャンペーンを進めていく、もっともっと緑を地域にもたらしていくというポジティブなことをしたい。愛知県、名古屋市、それに名古屋市の植物園も署名してくれました。これをただシンボルに終わらせるのではなく、子どもたちに向けて新しい未来を提供していくことなのです。子どもたちは次の世代を担うものであり、次の世代のリーダーでもあります。

2009年5月22日、今度の生物多様性の日には、日本に来たいと思っています。東京の小学校でイチョウを植えるというプロジェクトも考えていいのではないかとということで、ディスカッションしているところです。また、MOP5(カルタヘナ議定書の第5回加盟国会議)、第10回締約国会議に向けて名古屋までのロードマップ

というのをやはり考えていかなければならないと思っています。事務局の方でも7月にボンで、条約のビューロ会議をしますし、2008年9月にまた日本に来る可能性について考えているところです。

現在、生物多様性の事務局というのは30人しかおりません。やはり人的にも限られているところです。ですので、みなさんとの協力を高めていきながら是非COP10を成功させたいと考えております。そのCOP10の成功とは何かというと、日本政府のためだけのものではなくて、日本人々々にとって、日本の生物多様性にとって、さらに世界の持続可能な社会にとって非常に重要なものです。

そして、日本の責任というのは2010年で終わるものではありません。COPの議長国というのはその後2年間、つまり2012年まで続くということです。2012年に何があるかということ、それはヨハネスブルクサミットの10年後を記念する会議があり、地球サミットで採択された3つの重要な条約である国連気候変動枠組み条約、生物多様性条約、砂漠化防止条約この3つの条約採択の20年目の記念となる祝いの年になるということです。ここまで、日本政府は生物多様性条約の議長として活躍していただきたいというふうに思っています。このような機会を設けていただきまして大変うれしく思っております。是非この場を活用してみなさんとの協力関係を高めていきたいと思っております。ありがとうございました。

最後に一言だけ付け加えたいと思っております。COPとは決してプロパガンダのようなものではありません。国連の原則にのっとって行います。つまり国連の原則、すなわち透明性を確保し、そして暴力的行為を否定するということです。ご存知のように本会議の議論を妨害するというようなことというのは許されません。互いを尊敬し無礼なことをしないということも当然の話です。

NGOと政府というのは、当たり前なのですが、様々な関係を持っており、そのネットワークを作りあげていって、NGOと政府だけでなくビジネスも作りあげていって透明性のある会議を開催したいというふうに思っております。

生物多様性条約としては国連大学ともこれから協力関係を築きあげていきたいと考えていて、それも連携体制の枠組みに入るものです。

---

---

## 質疑応答

---

---

Q：非常に私たちにやる気をもたせてくださるご発言で、大変ありがたいと思っております。今日から、NGOの動きは始まると思いますが、私も現実主義者なので、日本の政府がどこまでその気になるかというのが、一番の核心部分かなと常々思います。そこの大きな流れが変わらない限りは、2010年は失敗するというふうに思っております。私の希望はジョグラフィさんが日本政府に対して、こうあるべきだというメッセージを発信してくれるというのが一番影響力があると感じています。

環境省が力がないというのは、みんな分かっている、環境省をバックアップしなければいけないと思うのですが、そのほかの省庁の人たちが動かないなんていう今の状況が変わらないのではないかという、強い印象を持ちます。どうしたらいいかそれが悩みです。そのあたりのジョグラフィ事務局長の印象を聞きたいのですが。

A：COP10は日本だけのものではなくて、国連原則に従うということもありますし、「NGOがなければCBDはない」という基本的な考え方があります。

ホスト国の環境大臣というのはCOPの議長をしなければいけません。ドイツではガブリエル・シグマールさんという方が議長になりました。実際2006年3月にCOP8で、ドイツで開催さ

れることが決まってから開催都市というのをどこにするかというのを2007年1月に決めました。その際に議論をしてホストの役割は何かというのを議論し、国内委員会の設立等行ってきました。

現在、COP10誘致委員会というのが地域レベルではあります。私はこれが国内レベルで必要だと思っております。それは環境省だけの委員会ではなくて他の省庁も入ったような、国内委員会が必要でしょう。なぜなら閣議決定で誘致をすることが決まったからです。

また、NGOの国内委員会というのも必要ではないでしょうか。生物多様性条約をホストするというのは、国の責任ではありません。日本の責任なのです。ですので、COP9をみてもわかるように、メディアも新聞もそしてアーティストも様々な人が様々なやり方でCOP9を成功させようと頑張ってきました。繰り返しますが、政府の責任ではなくて日本全体の責任としてCOP10をホストしなければならない、ということです。

先日名古屋のNGOとも議論しまして、そのNGOの組織がまだまだ充分ではないという話も確かにでました。でも、アフリカも同様です。大変旅費もかかりますし、日本というのは生活費がとて高い国なので、彼らは来られないのです。彼らのことをどう助けるかというのも考えなければいけません。ドイツは確かにそのサポートをやりました。みなさんがNGOの国内委員会を組織したならば、助成金とかネットワークなどみなさん様々な力を持っていると私は信じているので、世界中から人を呼ぶことが重要です。世界中の貧困の国も含めてバランスをよく世界中の人たちを呼ぶ努力が必要であると思えます。

私は、また9月に日本にやっ来てまいります。その際に是非またそれぞれの思いを語り合う意見交換をしたいと思っております。是非事務局を助けていただいてCOP10というのを歴史的なこれまでに例のない会議を成功させたと思っております。今日は本当にありがとうございました。

是非聞いておきたいことはありますか？

Q：ジョグラフさんの考える、COP10が成功するかしないかの指標は何ですか？

まず、名古屋では2020年目標が採択されることが必要です。2002年にヨハネスブルクで定められた2010年目標というのは、あまりに一般的な概念的な言葉でそして政治的な言葉でした。2010年の名古屋の目標は科学的なベースのものにすべきです。より具体的で目に見える測定可能なそういった目標が必要です。例えば、WWFが提案した2020年までに森林の総量としての減少をなくす、という目標というのはとてもわかりやすい。それからもう一つには、それぞれの目標、それぞれ国ごとに生物多様性は違うので、それぞれの目標が必要なのではないかと、しかし、アプローチは一つである、というものが必要ではないかと思えます。

2番目はABS、遺伝資源へのアクセスとその利用から生じる利益の公正、公平な配分についての国際的枠組みというものです。これは日本にとって非常に大きな、ランドマークになるでしょう。これは、まさしく21世紀のパートナーシップです。「私が提供すれば、あなたが提供する。私が提供すれば、あなたも提供する」という当たり前の、しかしこれまで実現されなかったパートナーシップをまさしく実現するという枠組みにしなければなりません。それから、2010年は、国際生物多様性年になります。普及啓発をどんどん進めていくわけです。私が確信するのは2010年12月、生物多様性年が終わる時、世界は変わっ

ているだろうと、60億人の人々の考え方が変わっているということを私は確信しています。

3番目に名古屋メソッドというものがあるのではないのでしょうか。名古屋アプローチ、名古屋スピリットと言ってもいいのですが、議会も市長も都市も女性もNGOも政府も科学者も、あらゆる人たちが一緒になって家族であるかのようにこのCOP10を盛り上げていくということを示していけたらいいのではないかと。

また個人的にいえば、名古屋がこの国で最も技術の発達した現代的なところでありつつも、一方で文化やアイデンティティを守れるのだということに世界にアピールできるのではないのでしょうか。里山、里海がとても重要な概念です。「里山、里海」というのは日本の言葉ですが、それは世界のどこにでもあります。確かに祖先はPCやモバイルとか科学技術はなかったのだけれど、自然と付き合ってきて、そういうものを世界に訴えていくことができるかどうかということが指標になるのではないのでしょうか。

最後に個人的な希望ですが、日本の方は思慮深く、恥ずかしがり家の方が多い。しかし、2010年には世界に向けて自分たちはやったのだと、世界に未来をもたらしたのだと立ち上がって叫んでほしいと思います。（了）